

テーマ：2018年1-3月期GDP（2次速報値）の予測

～前期比年率▲0.1%と、1次速報の▲0.6%から上方修正されると予想～

発表日：2018年6月1日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴

TEL:03-5221-4528

○設備投資を主因に、1次速報から上方修正の見込み

6月8日に内閣府から公表される2018年1-3月期実質GDP（2次速報）を前期比年率▲0.1%（前期比▲0.0%）と予想する。設備投資の上方修正を主因として、GDP成長率は1次速報の前期比年率▲0.6%から上方修正されるだろう。設備投資は、1次速報では前期比▲0.1%にとどまっていたが、法人企業統計等の結果が反映される2次速報では前期比+0.6%に上方修正され、設備投資の増加基調が続いていることが示されるだろう。企業の設備投資意欲が強いことを踏まえると、こちらの方がイメージには合う。

もともと、上方修正とはいえ、それでも1-3月期のGDPはほぼゼロ成長にとどまる見込みである。それまで好調に推移していた景気が年明け以降いったん足踏みとなっている事実は変わらない。野菜価格高騰と天候不順による消費停滞、輸出の減速、住宅投資の減少、在庫の下押しなどが1-3月期の景気の足を引っ張った。

2018年1-3月期GDP2次速報予測

1次速報実績

	(%)	(%)
実質GDP	▲ 0.0	▲ 0.2
(前期比年率)	▲ 0.1	▲ 0.6
内需寄与度	▲ 0.1	▲ 0.2
外需寄与度	0.1	0.1
民間最終消費支出	0.0	0.0
民間住宅	▲ 2.1	▲ 2.1
民間企業設備	0.6	▲ 0.1
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.1	▲ 0.1
政府最終消費支出	0.0	0.0
公的固定資本形成	0.0	0.0
財貨・サービスの輸出	0.6	0.6
財貨・サービスの輸入	0.3	0.3
名目GDP	▲ 0.2	▲ 0.4
(前期比年率)	▲ 1.0	▲ 1.5

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

○需要項目別の動向

実質設備投資は前期比+0.6%と、1次速報段階の前期比▲0.1%から上方修正されると予想する。本日公表された18年1-3月期の法人企業統計では、名目設備投資（ソフトウェア除く）が前年比+2.1%と、17年1-3月期の+4.7%から伸びが鈍化、季節調整済み前期比でも▲0.0%にとどまった。もともと、QE推計

において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整等を行えば、1次速報で想定されていた値からは明確に上振れる。また、生産動態統計等の3月分の結果を反映すると、供給側推計値もやや上方修正されるとみられる。1次速報では設備投資が1-3月期に前期比▲0.1%と足踏みになっていたが、2次速報では設備投資の増加基調が続いているとの姿に変わるだろう。設備投資を取り巻く環境は良好で、先行きも増加傾向を続ける可能性が高い。

在庫投資は前期比年率寄与度▲0.5%Pt（前期比寄与度▲0.1%Pt）と、1次速報段階の▲0.6%Pt（前期比寄与度▲0.1%Pt）から僅かに上方修正されると予想する。1次速報段階では、仮置きとなっていた原材料在庫と仕掛品在庫が大幅なマイナス寄与だったため、2次速報で比較的大きな上方修正になる可能性もあると考えていた。だが、本日公表された法人企業統計でも原材料在庫は弱かったため、2次速報でも目立った上方修正にはならないとみられる。

公共投資は前期比0.0%を予想する（1次速報：前期比0.0%）。1次速報段階で未公表だった18年3月分の建設総合統計の結果が反映されるが、1次速報から特に変化はない見込み。